

トラック運送業界の状況

全ト協が 平成28年10月～12月期の 「トラック運送業界の景況感」 を発表

平成28年10月～12月期の「トラック運送業界の景況感」を公益社団法人全日本トラック協会が2017年2月10日に速報としてまとめ発表した。

平成28年10月～12月期の業況判断指数(日銀短観12月)は、非製造業で運輸・郵便業等が改善したものの、個人消費の回復が脆弱で小売業等が悪化したため横ばいとなった。一方で製造業は11月の米国大統領選におけるトランプ候補勝利後、米国内の経済成長への期待感による円安効果等が寄与し、1年半ぶりに改善した。

このような状況において、トラック運送業界の10月～12月期は、輸送数量や実働率、実車率が大幅に改善した。さらに燃料価格の下落が寄与したことにより、営業利益及び経常利益も大幅な改善となった。そのため、景況感の判断指標は▲12.8となり、前回(▲30.1)から17.3ポイント改善した。なお、来期の見通しとなる景況感の判断指標は、OPECの減産合意による原油高の懸念やドライバー不足等を反映し、今回より11.6ポイント悪化して▲24.4の見通しとなっている。

1. 今回(平成28年10月～12月期)の トラック運送業界の状況

① 概況

平成28年10月～12月期におけるトラック運送業界の景況感は「好転」とした事業者は17.0%(前回11.2%)、「悪化」とした事業者は28.4%(前回37.9%)で、判断指標は▲12.8となり、前回(▲30.1)から17.3ポイントの改善となった。

② 一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者

が28.4%、「増加」とする事業者が23.0%で、判断指標は▲7.3となり、前回(▲16.8)から9.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が30.2%、「増加」とする事業者が25.2%で、判断指標は▲7.0となり、前回(▲16.3)から9.3ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が29.1%、「増加」とする事業者が21.9%で、判断指標は▲9.5となり、前回(▲11.9)から2.4ポイント改善した。

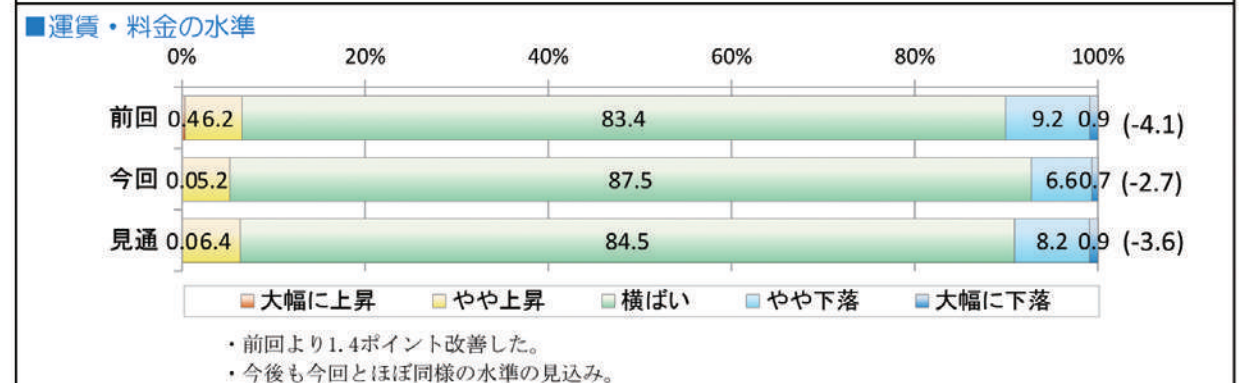
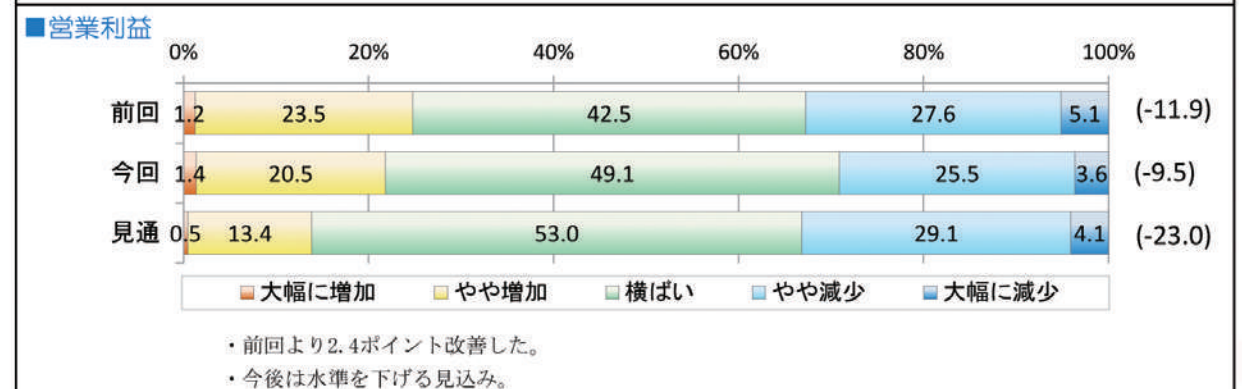
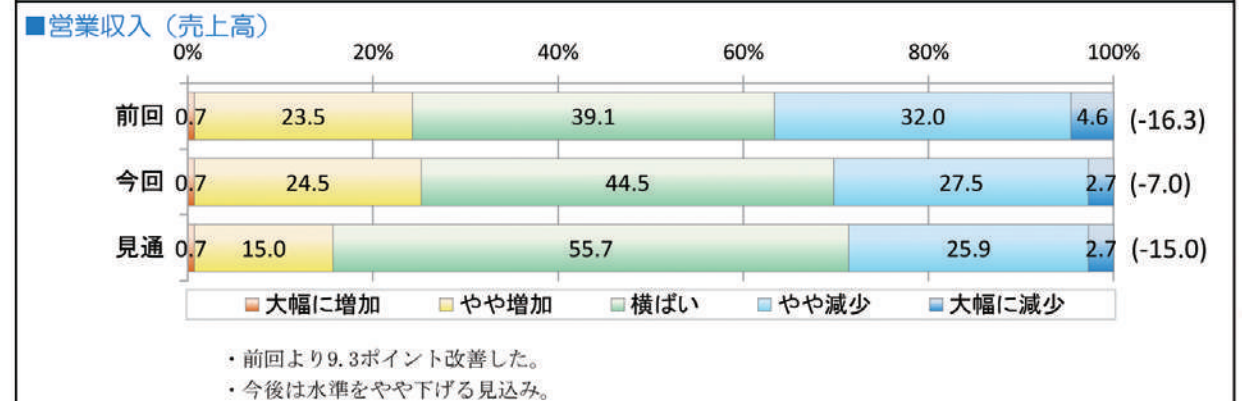
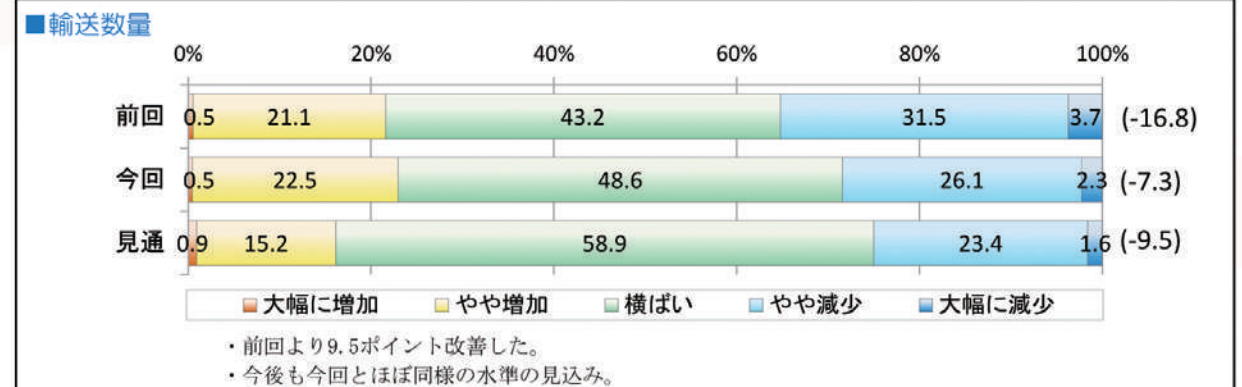
③ 特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が21.6%、「増加」とする事業者が37.8%で、判断指標は16.2となり、前回(▲23.3)より39.5ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が27.0%、「増加」とする事業者が40.5%で、判断指標は13.5となり、前回(▲10.0)よりも23.5ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が24.3%、「増加」とする事業者が29.7%で、判断指標は2.7となり、前回(▲3.3)よりも6.0ポイント改善した。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が34.0%、「増加」とする事業者が24.5%で、判断指標は▲9.4となり、前回(▲26.0)から16.6ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が37.7%、「増加」とする事業者が20.8%で、判断指標は▲17.0となり、前回(▲14.0)から3.0ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が



一般貨物の概況



【調査の概要】

平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。第96回調査は、平成29年1月16日に、モニターに対して調査開始。平成29年1月31日回収分までを集計。

特積	一般	回答事業者 全体
70	440	454

※一部回答事業者の重複あり

トラック運送業界の状況



26.4%、「増加」とする事業者が26.4%で、判断指標は1.9となり、前回(▲10.0)から11.9ポイント改善した。

④ 運賃・料金水準

運賃・料金水準は一般貨物▲2.7(前回▲4.1)と1.4ポイント改善、宅配貨物は▲8.1(前回6.7)と14.8ポイント悪化、宅配以外の特積貨物は7.5(前回8.0)から0.5ポイント悪化となっている。

⑤ 実働率等

実働率は▲3.7(前回▲16.0)と12.3ポイント改善、実車率は▲3.3(前回▲14.1)となり10.8ポイント改善となった。

雇用状況(労働力の過不足)は77.3(前回71.8)と5.5ポイント上昇し、不足感が強くなった。採用状況は▲6.6(前回▲11.5)で4.9ポイント増加し、所定外労働時間は▲2.4(前回▲11.7)と9.3ポイント増加している。貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)は0.4(前回▲10.8)で11.2ポイント増加となった。経常損益は▲1.8(前回▲13.3)となり、指標は11.5ポイント改善となった。

⑥ 規模別及び取扱い品目別、地域別

事業者の規模別では、大規模事業者は▲2.2(前回▲22.6)と20.4ポイント改善、中規模事業者は▲10.6(前回▲26.6)となり、16.0ポイント改善、小規模事業者は▲20.0(前回▲38.6)と18.6ポイント改善となっている。

一般貨物における主な取扱い品目別については、消費関連貨物は▲8.7(前回▲25.4)と16.7ポイント改善、建設関連貨物は2.7(前回▲30.1)と32.8ポイント改善、機械関連貨物は▲27.3(前回▲24.7)と2.6ポイント悪化しており、その他貨物は▲19.9(前回▲36.9)と17.0ポイント改善している。

一般貨物について業界の景況感を地域別にみると、北海道、関東、北陸信越、中部、近畿、四国は

水準を上げているが、九州はほぼ横ばいである。

2. 今後(平成29年1月～3月期)の見通し

① 概況

平成29年1月～3月期の見通しについて、業界の景況感の判断指標は▲24.4で、今回から11.6ポイント下がる見込みだ。

② 一般貨物

一般貨物について、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入はやや悪化、営業利益は悪化の見込みである。

③ 特別積合せ貨物

宅配貨物について、輸送数量、営業利益は悪化、営業収入はやや悪化の見込みである。

宅配以外の特積貨物について、輸送数量はほぼ横ばい、営業収入はやや改善、営業利益は悪化の見込みである。

④ 運賃・料金水準

一般貨物はほぼ横ばいの見込み、宅配貨物は僅かに低下、宅配以外の特積貨物はやや低下の見込みである。

⑤ 実働率等

実働率、実車率はやや悪化の見込みである。雇用状況(労働力の過不足)は指標の水準を上げ、不足感が強まる見込みである。採用状況はほぼ横ばい、所定外労働時間、貨物の再委託(下請運送会社への委託割合)はやや悪化、経常損益は指標の水準を下げる見込みである。

⑥ 規模別および取扱い品目別、地域別

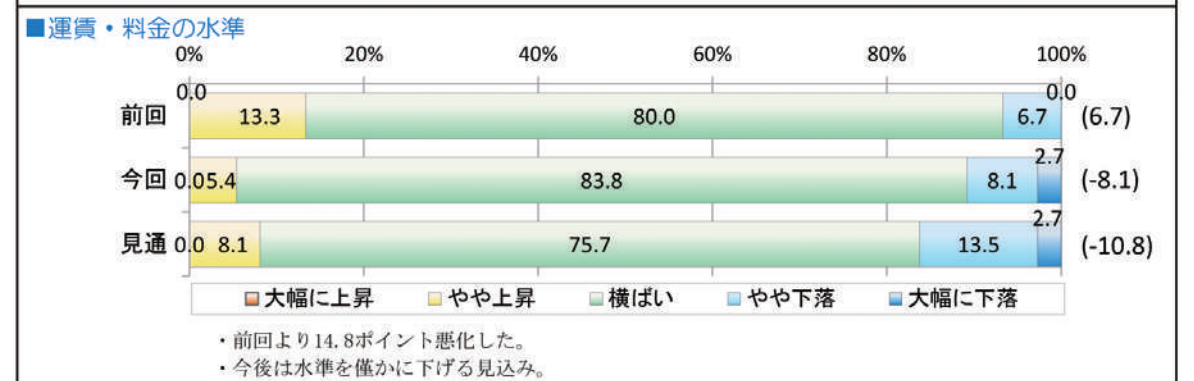
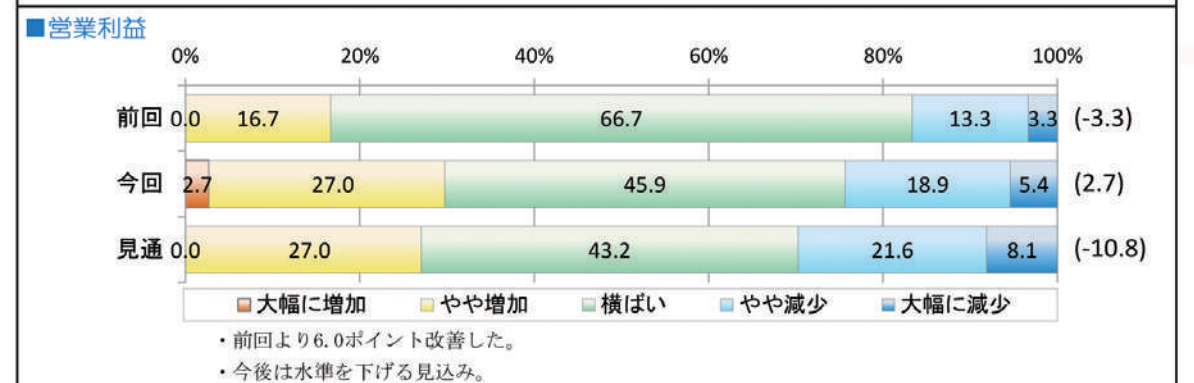
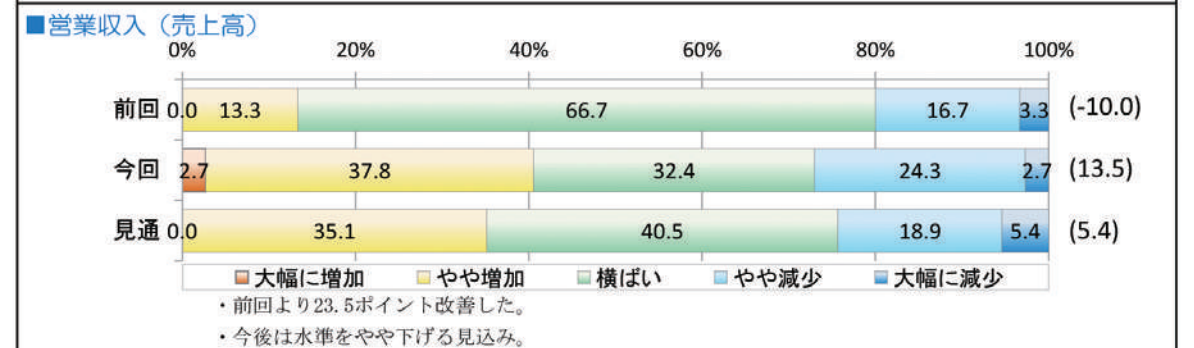
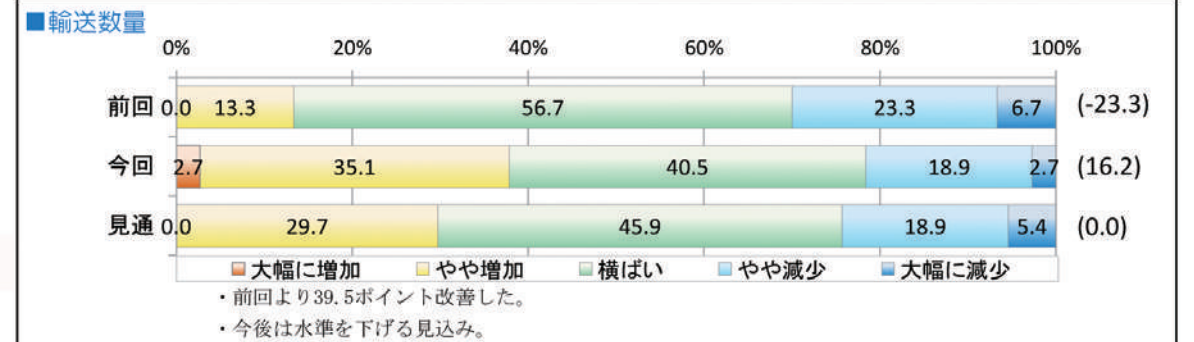
事業者の規模別では、大規模事業者、中規模事業者においては悪化、小規模事業者においてはやや悪化の見込みである。

一般貨物における主な取扱い品目別では、消費関連貨物、建設関連貨物、機械関連貨物は水準を下げ、その他貨物はやや悪化の見込みである。一般貨物における地域別では、北海道、東北、北陸信越、四国、九州では水準を下げ、近畿はほぼ横ばいの見込みである。



特積貨物の概況

① 宅配貨物



(注1) 各グラフの上段は前回(H28.7月～9月期)の状況、中段は今回(H28.10月～12月期)の状況、下段は今後(H29.1月～3月期)の見通しを示す。いずれも前年同期比を集計している。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

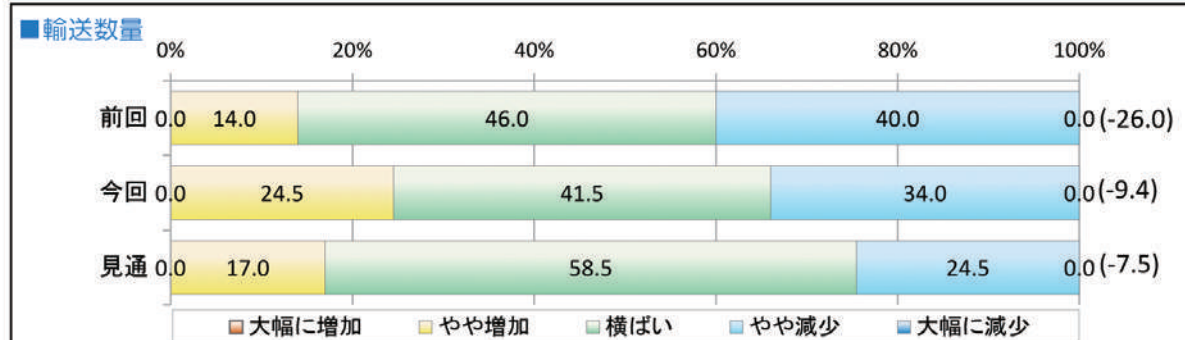
(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、大幅に増加・上昇・好転、労働力不足+2、やや増加・上昇・好転、労働力不足+1、横ばい0、やや減少・低下・悪化、労働力過剰-1、大幅に減少・低下・悪化、労働力過剰-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A(設問Aの回答者数) = a1+a2+a3+a4+a5(設問Aの選択肢1～5の回答数の和)

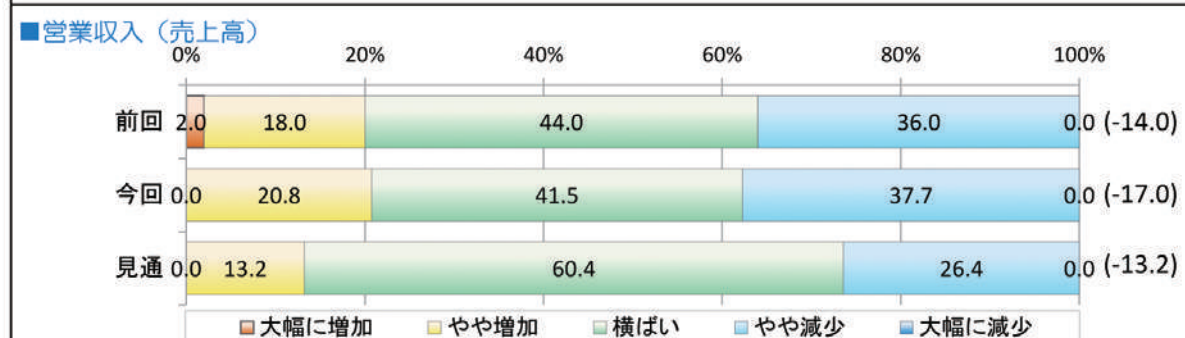
指標 = {(+2×a1) + (+1×a2) + (0×a3) + (-1×a4) + (-2×a5)} ÷ A × 100

トラック運送業界の状況

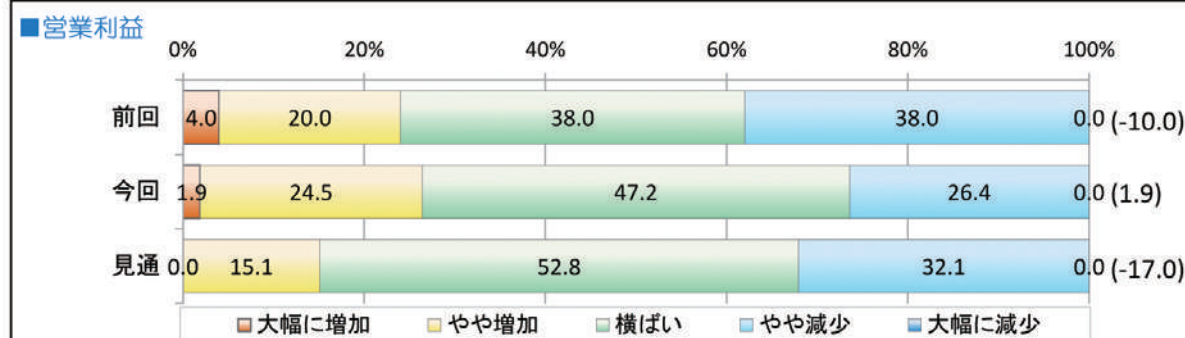
② 宅配以外の特積貨物



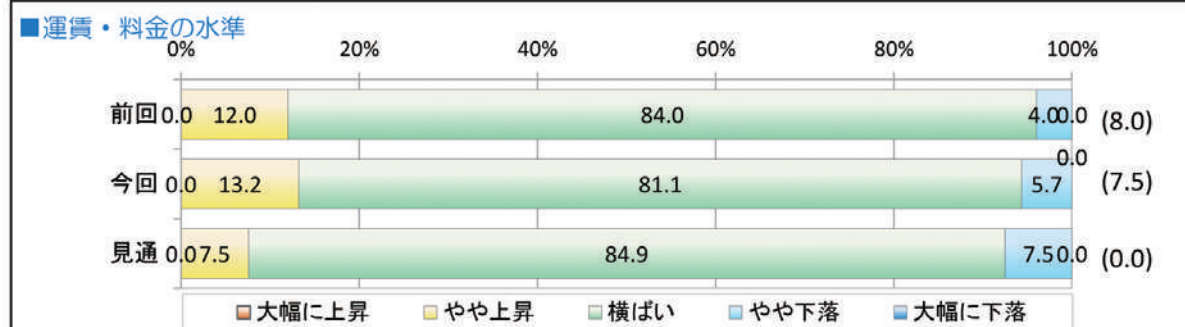
- ・前回より16.6ポイント改善した。
- ・今後は今回とほぼ同様の水準の見込み。



- ・前回より3.0ポイント悪化した。
- ・今後は水準を僅かに上げる見込み。

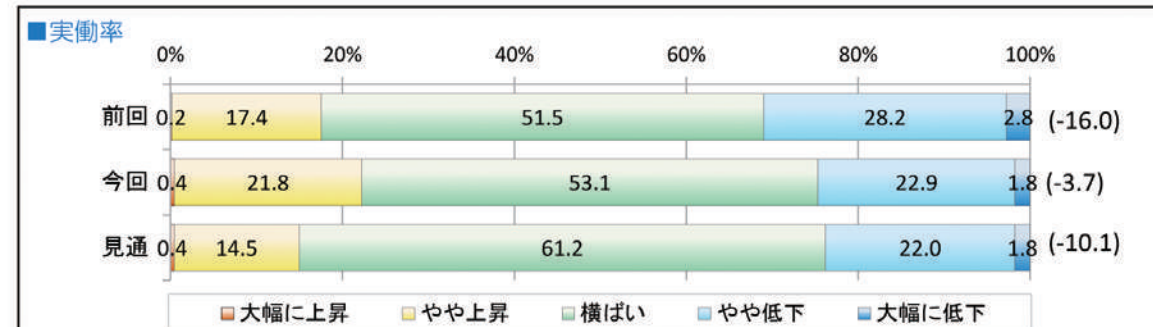


- ・前回より11.9ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

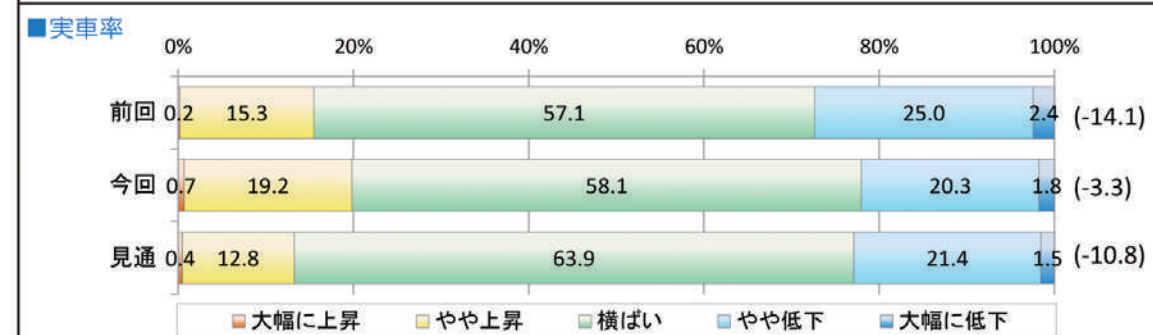


- ・前回より0.5ポイント悪化した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

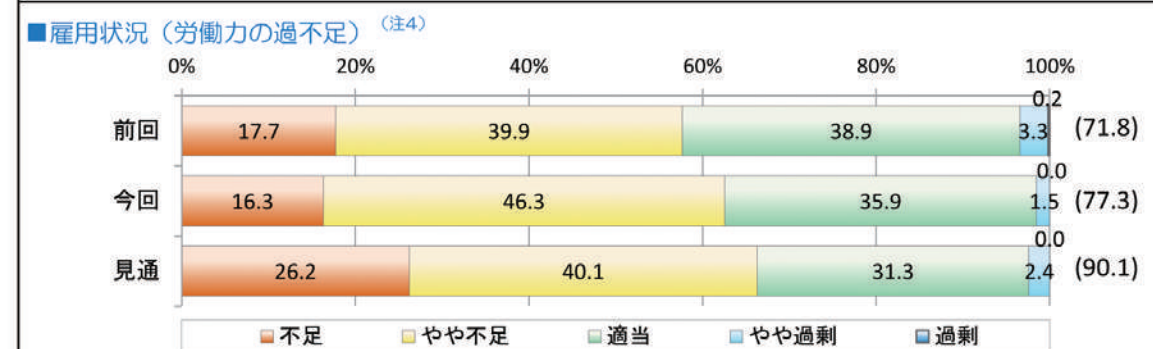
共通の概況



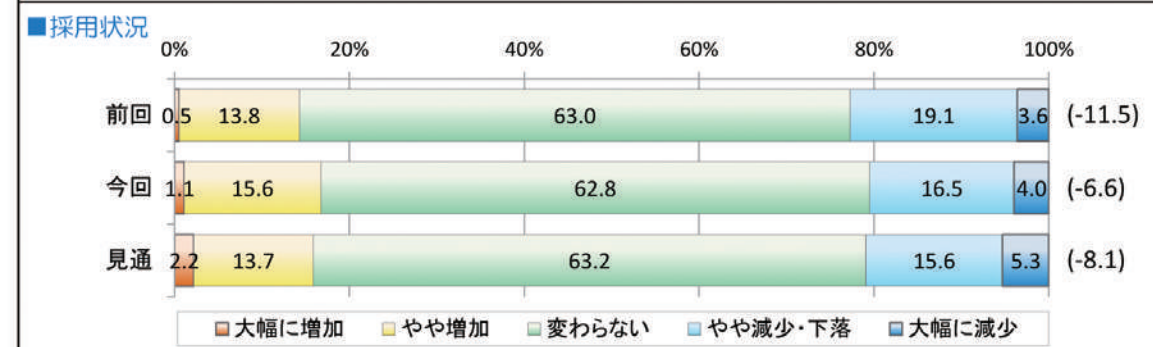
- ・前回より12.3ポイント改善した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。



- ・前回より10.8ポイント改善した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。



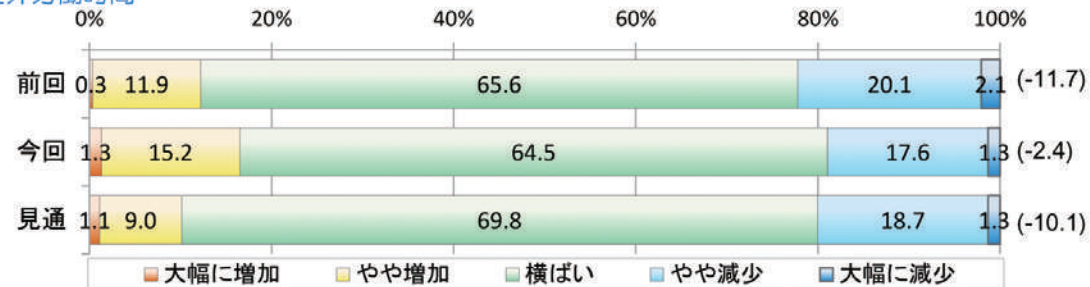
- ・前回より5.5ポイント上昇した（不足感が強くなった）。
- ・今後は水準を上げる見込み。



- ・前回より4.9ポイント増加した。
- ・今後も今回とほぼ同様の水準の見込み。

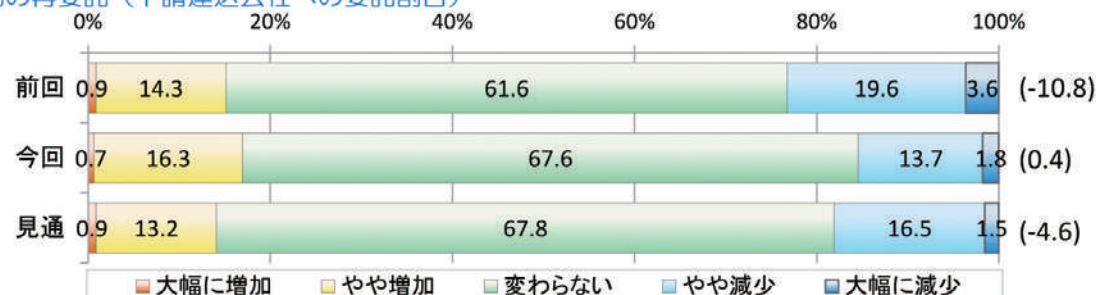
（注4）雇用状況については、上段は前回（H28.7月～9月期）の状況、中段は今回（H28.10月～12月期）の状況、下段は今後（H29.1月～3月期）の見通しを示しているが、前回及び今回は前年同期比ではなく「その期の状況」を、見通しは「前年同期比の見通し」を質問している。

■所定外労働時間



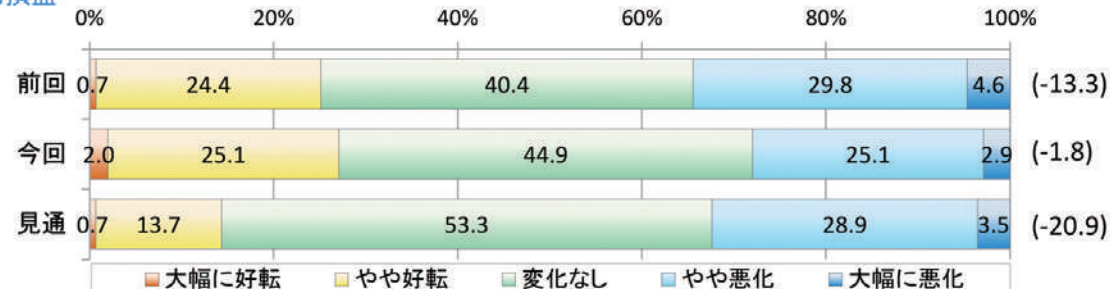
- ・前回より9.3ポイント増加した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■貨物の再委託（下請運送会社への委託割合）



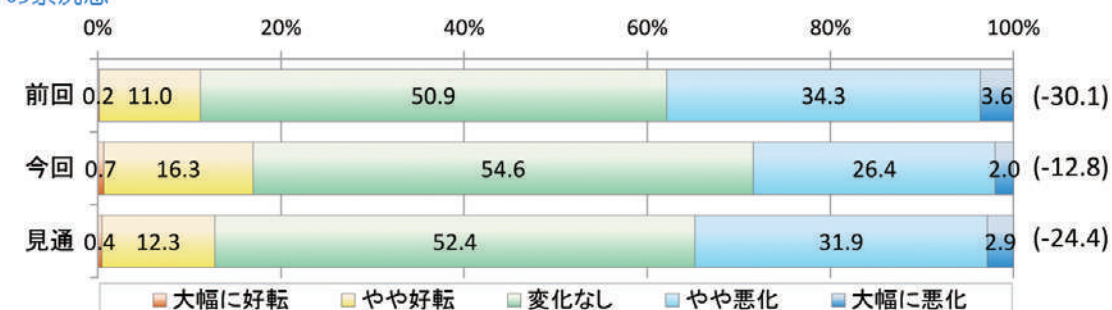
- ・前回より11.2ポイント増加した。
- ・今後は水準をやや下げる見込み。

■経常損益



- ・前回より11.5ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

■業界の景況感



- ・前回より17.3ポイント改善した。
- ・今後は水準を下げる見込み。

New ハイウイング Max 大型ドライウイング

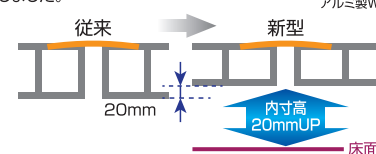


構造一新！
だから軽い、
だから積める！

より広く、より軽く、より使いよく

構造一新！だから使いやすい!!

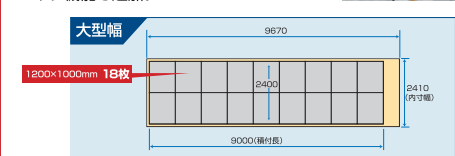
ボディ主要部品の断面形状を一新し、100kgを超える軽量化と内寸高20mmアップを実現しました。



内寸高2,705mmを達成
(4軸低床嵩物仕様タイプ)

ワイドな内寸幅、最大2410mmを実現！だから積める!!

特殊断面形状により、強度を維持したまま薄型化した新開発の中柱を採用。庫内をフラット化することでパレットの向きが揃うようになりました。安全面にも配慮して補助ロック機能も追加。



嵌合式ブロック採用で15%軽量化に成功しました!

庫内側には傷が目立ち難いリブ形状を採用。



高積載輸送、低燃費をご提案します。

トランテックスは輸送の「頼れるパートナー」をめざし、常にお客様目線で考え、これからの物流をご提案します。

環境マネジメントに関する国際規格
ISO14001認証取得(本社・工場)



株式会社 トランテックス

ホームページアドレス <http://www.trantechs.co.jp/>

本社・工場	〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地	TEL 076-274-2806 (総機人事部直通)	東海営業所	〒467-0847 名古屋瑞穂区神穂町6-39	TEL 052-811-3201
北海道駐在所	〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3-2-15	TEL 011-782-1051	営業本部・北陸営業所	〒924-8580 石川県白山市徳丸町670番地	TEL 076-274-2816
東北営業所	〒983-0034 仙台市宮城野区扇町11-7-36(日野ビル3F)	TEL 022-284-8012	関西営業所・中国営業所	〒555-0012 大阪市西淀川区御幣島2-15-28(みてしまグリーンビル4F)	TEL 06-6473-1812
東京事務所	〒105-0004 東京都港区新橋5-18-1	TEL 03-6895-4301	九州営業所	〒811-3134 福岡県古賀市青柳469-6	TEL 092-942-1633